

令和7年度 高津中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率は全国と比較して3. 7ポイント上回っており、平均無解答率は2. 4ポイント低かった。
領域ごとの平均正答率はすべての領域において全国を上回り、特に「書くこと」領域では全国を7. 4ポイント以上上回る成果が見られた。

＜数学＞

平均正答率は全国と比較して1. 7ポイント上回っており、平均無解答率は2. 5ポイント低かった。
領域ごとの平均正答率はすべての領域において全国を上回り、特に「関数」の領域では全国を4. 6ポイント以上上回る成果が見られた。

＜理科＞

全国と比較してIRTバンド5の割合が4.5ポイント上回っている。

＜生徒質問紙＞

「朝食を毎日食べていますか(+2.1)」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(+5.1)」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(+1.4)」「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(+2.2)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると上回っている。
「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(-2.2)」「自分には、よいところがあると思いますか(-1.3)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると下回っている。

【今後に向けて】

これまで、どの教科においても、授業の中で自分で考えたことを他者に分かりやすく発表したり説明したりする活動を多く取り入れて表現力を育むとともに、朝読等の読書活動を通して読解力の育成を図ってきた。これらの取組が、全国の平均正答率を上回った成果につながったと考えられる。
また、朝学習の時間や長期休業中にスタディサプリやデジタルドリルを効果的に活用し学力の向上に努めることも効果的であった。
今後も授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善の取組として、これまで本校で取り組んできている習熟度別少人数授業やティームティーチングを効果的に活用し、生徒一人ひとりにていねいな学習指導を展開し、個々の課題解決につなげていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

国語の平均点は大阪府と比較して2. 3ポイント、大阪市と比較して7. 9ポイント上回った。平均無答率も大阪府より0. 7ポイント、大阪市より2. 0ポイント低い結果となった。社会の平均点は大阪府と比較して5. 5ポイント、大阪市と比較して6. 3ポイント上回った。平均無答率も大阪府より0. 7ポイント、大阪市より0. 8ポイント低い結果となった。数学の平均点は大阪府と比較して0. 4ポイント、大阪市と比較して9. 2ポイント上回った。平均無答率は大阪府より0. 3ポイント、大阪市より3. 4ポイント低い結果となった。理科の平均点は、大阪府と比較して2. 9ポイント、大阪市と比較して10. 5ポイント上回った。また、平均無答率は、大阪府より2. 4ポイント、大阪市より2. 1ポイント低くなった。英語の平均点は、大阪府と比較して8. 5ポイント、大阪市と比較して13. 5ポイント上回った。平均無答率も大阪府より3. 8ポイント、大阪市より3. 8ポイント下回っている。

＜課題＞

どの教科においても大阪府、大阪市の平均点を上回ったが、各教科の詳細を見ると、それぞれの教科での課題がみえてくる。国語では「我が国の言語文化に関する事項」の領域、数学では「関数」の領域の得点が、他の領域と比べて低くなっている。英語については、どの領域においても大阪府・市の平均を大きく上回っている中で「読むこと」の領域が、最も大阪府・市の平均に近い点数であった。社会においてはどの領域においても大阪府・市の平均を上回っており、分野・領域においての偏りは見られなかった。しかし、理科においてはどの領域においても大阪府・市の平均に近かった。

【今後に向けて】

今年度も全教科で自分の考えを他者に分かりやすく発表・説明する活動を取り入れ、表現力の育成を図ってきた。また、始業前の読書活動等を通して読解力の向上にも努めてきた。これらの取組が、全国学力・学習状況調査において全国平均を上回る成果につながったと考えられる。
一方で、理数教科では、思考過程を言語化して説明する力や、複数の情報を整理して解決に結び付ける力に課題が見られた。
今後は、習熟度別少人数授業やティームティーチングをさらに工夫し、問題解決型の学習を取り入れながら、生徒が自分の考えを根拠をもって説明できる授業づくりを推進していく。これにより、理数的な思考力と表現力の双方を高め、個々の課題解決につなげていきたい。

○大阪市英語力調査(GTEC)において

＜成果＞

「読むこと」は大阪市と比較して、9. 8%上回った。「聞くこと」は大阪市と比較して、13. 6%上回った。「書くこと」は大阪市と比較して、28. 3%上回った。「話すこと」は23. 4%上回った。

＜課題＞

昨年度と比較すると学校としての全体的な数値は下がった。今後は、生徒一人一台端末を有効に活用しながら英語力向上のため4技能統合型の授業をより推進していきたい。